

施設紹介

岡山大学病院



岡山大学病院は中四国地区における心疾患診療の拠点となっています。胎児心疾患診療においても同様で、中四国地方からの紹介患者を多く受けていますが、それだけでなく、北は北海道、南は沖縄からの紹介患者をうけており、海外から受診される方もおられます。

当院の胎児心疾患診療は、主に小児循環器医がおこなっており、毎週月曜午後に胎児心エコー外来を設けております。ご紹介いただく際にはまず当院産科を受診していただき、産科的問題をチェックしていただいた後に、胎児心エコー外来を



岡山大学病院 小児科循環器グループ
胎児心エコー外来

受診していただきます。そこで胎児心臓病についての精査を行い、ご家族への説明を行います。

心疾患胎児に関しては、心臓血管外科、小児麻酔科、小児循環器との小児心臓カンファレンスで共有され、産科、新生児グループと連携を取り、分娩時期や出生後の治療についての検討を行っております。重症心疾患胎児に関しては、コメディカルも含めた関係各科と連携したカンファレンスが行われ、出生当日の治療介入が必要な児の診療にもあたっています。当院における過去12年のうち出生当日に治療介入が必要であった胎児は24例で、うち外科的治療は7例（intact atrial septumやTAPVC、三心房心を合併したHLHSの心房中隔作成術やPV還流修復術5例、Critical ASにおけるAoV valvotomy 1例、PA/IVSにおけるhuge ventriculo-coronary fistulaの結紮術1例）、カテーテル治療は17例（HLHSやTGAにおけるBAS 12例、総肺動脈還流異常症における静脈管や垂直静脈へのステント留置5例）でした。



岡山大学病院 産婦人科 周産期チーム

また、小児外科疾患を合併する症例も多くあり、その場合は小児外科の先生にもチームに入っていただきます。

居住地から遠い当院で治療を希望される場合は、出生後の治療計画を踏まえた上でご家族で検討いただき、分娩施設を決めていただきます。そのうえで当院での治療を選択される場合は、出生後の治療の連携につなげていけるよう早期から居住地の病院との連携に努めています。

また、当院は学会認定の胎児心臓超音波検査専門施設であり、胎児心エコー認証医の取得も可能です。大学病院ならではの総合力を生かし、胎児期から成人期に至るまでの診療を診療科を超えたチームで行っておりますので、見学や研修をご希望の方はいつでもご連絡ください。お待ちしております。